

農道は日頃の農作業等で頻りに利用するため、道路や周辺施設には経年劣化が避けられません。早めの点検により的確に状況確認を行いましょう。



Q 機能診断のポイントは？

A 農道は車両等が通行する路上だけでなく、路肩や法面、側溝まで含めて、施設の状況を以下のチェックポイントにそって確認する必要があります。点検時期は、路肩や法面に雑草が繁茂していない冬季や春先に行うのが効果的です。



舗装



※土砂や落ち葉、雑草等で覆われたり、コケ等が繁茂したりしているときは取り除いてから確認しましょう。

路面



✓路面のくぼみ・穴はないか？



✓路面の大きなひび割れはないか？



※雑草等で覆われているときは取り除くかき分けて確認しましょう。

側溝



✓不同沈下していないか？



✓側壁の破損やはらみはないか？



✓目地の劣化や破損はないか？



✓側壁背面に空洞はないか？



✓表面に劣化やひび割れはないか？



✓蓋の破損や倒れ込みはないか？

路肩・法面



✓路肩や法面の崩れや亀裂・侵食はないか？

※市町が指定する様式がある場合は、そちらの様式を使用してください

機能診断チェックリストのつけ方

(参考様式)

機能診断チェックリスト(農道)

No. _____

活動組織名: 〇〇地区保全会
(確認担当者: 山口 太郎)

確認日: 2016年 4月 4日

路線名・区間: 〇〇地区内 全農道 ●-----

点検日と点検場所(幹線名や区間など)を記入します

施設・箇所	診断結果	備考(詳細)	
	問題ない○ 問題ある× 経過観察△		
道路 (舗装含む)	路面のくぼみ・穴	×	1ヶ所(深くて広くくぼみ)
	路面のひび割れ	×	2ヶ所(亀裂長さ約90cm、120cm)
	路肩の崩れ・亀裂・侵食	○ ●-----	
	法面の崩れ・亀裂・侵食	○	
	その他		
側溝	不同沈下	○	
	目地(継ぎ目)の劣化・破損	×	2ヶ所
	表面外観の劣化・ひび割れ	○	問題のあった場所をこの欄に記入して通しの番号(A、B、C…など)をふり、その番号を2頁のような問題箇所の位置図に記載します
	側壁の破損・はらみ	○	
	側壁背面の空洞	○	
	蓋の破損	○	
	その他		

問題の症状が「ない」場合は○、「ある」場合は×を記入します。症状があっても、すぐに対応の必要がない場合は「経過観察」(△)とします

※問題箇所については、写真撮影および図面や位置図への具体的な場所の記入も行い、整理・保管してください。

ため池は地域の田畑に必要な水を確保・供給する上で重要な役割を果たしてきました。この機能を維持するために機能診断をしっかりと行いましょう。



Q 機能診断のポイントは？

A ため池は通常は満水状態であるため、機能診断は水位が低下する時期に行います。診断は目視で行うほか、コンクリートの構造物などはハンマーで叩き、周囲と異なる音がしないかどうか、打音により確認します。

ため池の施設ごとに以下のポイントにしたがってチェックしましょう。



常時水面下にある部分は水抜き時に機能診断と補修を行うとよい。

コンクリート部分



✓ブロック類の破損やズレはないか？



✓目地(継ぎ目)の破損や劣化はないか？

✓目地裏に空洞が生じていないか？

※目視と打音で行う

堤体法面 (コンクリートブロックが張られていない堤体)



✓表面の侵食や崩れはないか？



✓表面の陥没や漏水はないか？

✓遮水シートの破損や劣化はないか？



✓下流側の法面の崩れや亀裂・侵食はないか？

他の構造物など



✓ゲートの作動異常はないか？

✓ゲートのサビや腐食はないか？



✓手すりや防護柵の破損や腐食はないか？

✓取水栓のサビや腐食はないか？



✓看板類の破損や設置の不備はないか？

✓管理道路の路肩や法面の損傷はないか？

※市町が指定する様式がある場合は、そちらの様式を使用してください

機能診断チェックリストのつけ方

(参考様式)

機能診断チェックリスト(ため池)

No. _____

活動組織名: 〇〇地区保全会
(確認担当者: 山口 太郎)

確認日: 2015年 4月 10日

位置・名称: 〇〇地区・〇〇池と××池 ●-----

点検日と点検したため池の名称を記入します

施設・箇所と問題状況		診断結果	備考(詳細)	
		問題ない○ 問題ある× 経過観察△		
堤体	表面の侵食・崩れ	○	問題の症状が「ない」場合は○、「ある」場合は×を記入します。症状があっても、すぐに対応の必要がない場合は「経過観察」(△)とします	
	表面の陥没・漏水	○		
	遮水シートの破損・劣化	○		
	法面の崩れ・亀裂・侵食(下流側含む)	○		
	その他	○		
コンクリート部	表面(ブロック類)の破損・ズレ	○	問題のあった場所をこの欄に記入して通しの番号(A、B、C…など)をふり、その番号を2頁のような問題箇所の位置図に記載します	
	目地(縦ぎ目)の破損・劣化	×		〇〇池 ゲート脇の目地 縦に亀裂(60cmほど)
	目地裏(縦ぎ目)の空洞	○		
	その他	○		
他の構造物など	ゲートの作動異常	○	××池 取水栓側の防護柵の金網に破れあり	
	ゲートのサビ・腐食	○		
	取水栓のサビ・腐食	○		
	手すりの破損・腐食・サビ	○		
	防護柵の破損・腐食・サビ	×		
	看板類の破損・設置不備	○		
	管理道路の路肩・法面の損傷	○		
その他	○			

※問題箇所については、写真撮影および図面や位置図への具体的な場所の記入も行い、整理・保管してください。

農用地や水路、農道、ため池などの点検・機能診断の結果に基づいて、年間活動計画を策定し、効率よく活動をすすめましょう。



Q 年間活動計画の立て方は？

A 年間活動計画の記載の仕方は自由ですが、いつ、どこで、だれが、どのような活動を行うのが一目で見られるように、年間スケジュール表の形式で作成するとよいでしょう。



竹刈り作業



水路を自主施工で補修作業



子どもたちの農業体験



遊休農地（休耕地）でれんげ祭り

〈計画立案の手順〉

- 1 施設ごとに草刈りや泥上げ、補修など、対応が必要とされる問題箇所に優先順位をつけ、今年度中に対応すべきところを明確にする。
- 2 カレンダーを見ながら各箇所の作業量や参加人員などを勘案しながら、それぞれの作業や催しを適切な月に割り振り、おおよその活動日（時期）を確定する。
- 3 年間の活動計画書（資源向上活動の年間活動計画書）にまとめる。

年間活動計画書の記入例

年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													

※上記は農地維持活動のみの年間活動計画の例

計画を立てたら・・・

●活動のお知らせを！

計画を立てたら、組織構成員にお知らせします。地区の公民館・集会所にも年間計画表を掲示し、それぞれの活動を行う度ごとに回覧板や広報誌で参加を呼びかけましょう。

●安全対策や万一の対策をしっかりと！

事前の下見により現地の危険箇所をつかみ、参加者が近寄らないよう対策をとります。また万一に備えて、**傷害保険（団体）**に加入し、関係機関（行政、土地改良区）や医療機関との連絡体制もつくっておくと安心です。

施設の機能診断や簡易補修、環境保全活動などを構成員自身の力で行えるように、組織としても構成員対象に研修を開きましょう。



Q 研修の内容はどう決める？

A 研修の内容は以下の手順で検討してみましょう。

- 1 年間計画表をもとに、一つ一つの活動に関して作業内容や手順、参加者などをイメージし、作業を行う上での技術的・技能的な課題がないか検討します。
- 2 自分たちで行う活動の中で、技術的・技能的な課題がある活動（たとえば、作業の段取りややり方について事前学習が必要なもの、安全な作業が求められるもの、ある程度の作業内容に関する知識や技能が必要なもの）を書き出します。
- 3 それぞれの課題ごとに研修すべきテーマと内容を決めます。ただし、一度に内容をつめ込み過ぎないように注意しましょう。







水土里ネットの職員や建設業者等を講師に水路補修の仕方を学ぶ

計画を立てたら・・・

- **構成員が集まりやすい日時に**
研修の日時を決める際に、作業に参加する構成員が集まりやすい日時にしましょう。ただし、研修で学んだ内容がすぐ実践に移せるように、研修日と作業日とはなるべく近いほうがよいでしょう。
- **DVDなどの映像活用も積極的に**
講師役は地元の土地改良区や市町の担当者に相談してみましょう。構成員の中にくい人がいれば、本人の負担になりすぎない範囲で講師をお願いしてもよいでしょう。テーマによってはDVDなどの映像資料を活用するのもよいでしょう。
- **現地研修は安全な場所で**
現場で研修を行う場合（たとえば、草刈りの楽で安全なやり方や水路の簡易補修の仕方、グラウンドカバープランツ植栽の仕方など）、作業の参加予定者全員が見学や実技がしやすい安全な場所を選びましょう。
- **参加者が受身にならないプログラムに**
より研修効果を高めるために、研修内容の要点をまとめた資料を配布するとともに、参加者が受身にならないように質疑応答や実技参加などをしっかりと組み込んだプログラムにしましょう。

研修テーマの例と内容、参考資料など

参加したいという動機付けを高めるために、研修テーマをチラシなどで伝える際は、タイトルなども少し工夫してみるとよいでしょう。参考資料なども活用すると内容がさらに充実します。

研修テーマ例（開催時期）	講師役	参考資料など
<p>家で安全に草を刈る、とっておきの方法教えます！ （5月～7月頃）</p> 	<p>草刈り上手な農家＋映像資料</p>	<p>WEBサイト「農業安全のポイント刈払機」（農作業安全情報センター）</p> <p>「刈払作業の安全マニュアル」（大牟田市中央安全衛生委員会）★</p> <p>DVD「多面的機能支払支援シリーズ① みんなで草刈り編」（農文協）</p> <p>DVD「雑草管理の基本技術と実際」全4巻（農文協）</p> <p>単行本「農家が教える ラクラク草刈り・草取り術」（農文協）</p>
<p>農業水路を長持ちさせるだけでもできる機能診断と簡易な補修法（1月～4月頃）</p> 	<p>水土里ネットの職員など＋映像資料</p>	<p>資料「コンクリート水路の簡易補修について」（農村工学研究所・森文久）★</p> <p>DVD「水路補修編」（農文協）</p> <p>冊子「水路の簡易補修マニュアル」（農文協）</p>
<p>田んぼの生きものを知ると農作業が楽しくなる！ 一田んぼの生きもの調査と生きものの識別の仕方 （5月～9月頃）</p> 	<p>水土里ネットの職員、田んぼの生きものインストラクターなど</p>	<p>単行本「生きものを育む 田園自然の再生」（農文協）</p> <p>冊子「生きもの調査のすすめ」（農水省他）★</p> <p>田んぼの生きもの調査下書き＆ガイド（農文協）</p> <p>冊子「ポケット版 田んぼの生きもの図鑑動物編／植物編」（NPO生物多様性農業支援センター）</p> <p>冊子「田んぼの生きもの識別図鑑」（地域環境資源センター）</p>
<p>明日から実践できる鳥獣被害の防ぎ方・防護柵の設置法（4月～10月頃）</p> 	<p>行政や農業試験場の鳥獣被害担当者、農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー（農水省登録）など</p>	<p>農林水産省「鳥獣被害対策コーナー」HP</p> <p>DVD「暮らしを守る獣害対策シリーズ」全1巻（農文協）</p> <p>冊子「暮らしを守る獣害対策マニュアル」（農文協）</p>

※参考資料のうち、★印のついた冊子類はWEB上で入手（ダウンロード）可能です（タイトルで検索して下さい）。